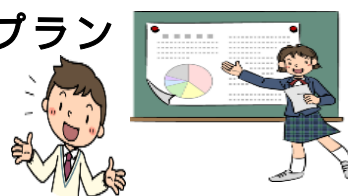



平成23年度 学力・学習状況改善プラン





(1) 学力について

重点目標：基礎・基本の定着とその活用能力の向上を図るとともに、豊かな表現力を培う。

具体的目標	数値目標	具体的方策
各教科等の授業において、自分の考えを的確に表現する能力や、周りの人の意見を聞き比べながら、自分の意見や考えをより深め発表できる力をつけさせる。	表現力に関する評価を、個々の生徒において年度末に年度当初よりも10%以上向上させる。	各教科等の授業を展開する際、話し合う活動を積極的に取り入れることとする。 できるだけ毎時間の授業展開の中で、「話す・聞く」活動を導入する機会を増やし、豊かな表現力の育成を図る。 
数学科において空間図形・一次関数・数と式の文章問題についての応用力アップを図る。	単元テストで70%以上の評価を目指す。	自主学習の定着化と、説明する場を設けることで、自分の考え方を、論理的に相手に伝えることができるようにする。
学校生活のあらゆる機会をとらえて、相手や場に応じた言い回しや言葉遣いができるようにする。	アンケートでの相互評価がA評価80%以上を目指す。	授業の中で積極的に発表・スピーチなどを行い、相互評価することで、話の構成に注意しながら的確に聴き取る力を養う。 学級活動や全校行事の中でもスピーチの場を設けたり、発表の場を増やす。

(2) 学習状況について

重点目標：自らの将来に明るい展望を持ち、夢の実現に向けて家庭学習の定着を図り、計画的・主体的に取り組む姿勢を養わせる。

具体的目標	数値目標	具体的方策
各教科において生徒の実態に即した課題を与え、目標を持って意欲的に家庭学習に取り組むことのできる生徒を育成する。	平日の家庭学習時間を年度当初の時間より10%増加させる。 	各学期ごとに、家庭での学習時間やその内容についての実態調査を行い、その結果をもとに担任等と二者面談を行い、個々の生徒の学習面でのつまずきを把握し、支援する。 家庭学習の手引きを作成し、個々の生徒の実態に応じた家庭学習のあり方を探らせていく。 学校だよりや家庭訪問などを利用して、保護者と連携を取りながら、家庭学習の定着に取り組む。
読書活動を継続的に行い、自らの読書傾向を把握させるとともに、いろいろな分野の本にも興味関心を持たせ、ものの見方や考え方の深化拡充を図る。	年間読書冊数50冊以上を目指す。 今まであまり読んでいないジャンルの本を1冊以上読むことを目指す。 	読書実態調査を行うことで、自分の読書傾向を把握させる。 生徒相互の読書傾向について理解を深めさせる。 学級文庫の選定については、生徒の希望だけでなく、教職員のおすすめ書籍を購入するなど、幅広い分野での学級文庫の充実を図り、読書の啓発につなげる。